

第3章 子どもの発達と健康

1 子どもの発達と健康課題の特徴

人間の成長発達には、いくつかの法則性があり理論化されている。子どもの健康状態や健康課題をとらえていく上で、成長発達に対する幅広い理解は欠かせない。全人的な成長発達こそが、幼児期から青年期の健康の中核だからである。そこで主要な成長発達の理論と健康課題をみていく。

1) 発達とは

一般的に子どもの育ちを表す用語には、成長、発育、発達がある。成長は、量的に大きくなることを指す最も一般的な言葉である。発育は身体的成長のよう

に量的・機能的な変化や増大のことを指し、子ども期においては成長と発達の2つの意味を包含している。なお、身体の生物学的構造と心理的機能の関係は、単純に前者は後者の基盤なのではなく、身体的構造の発達には心理的機能の活用が必要であり、その活用が身体の構造がもつ潜在性を発達させる関係でもある。すなわち、相互に密接に依存し合って、変化すなわち発達が生じる。

一方、発達は、これまで機能的な成熟を指すとされてきたが、最近はあらゆるタイプの変化を指し、単に獲得やプラスの変化のみを意味するのではなく、成熟から老化という減退までも含む広範な概念として用いられはじめています。成長や発育は子どもの時期に生じる現象を対象に用いられるが、発達は、生涯発達に代表されるように、受胎から死に至るまでの人間の生涯における変化を表す概念である。

したがって、学校教育と成長、発育、発達との関係を考えると、養護教諭をはじめ教職員には、学校教育において子どもの健康的な成長や発育を阻害する要因（例えば、基本的な生活習慣、いじめなど社会関係、環境中の有害物質など）をできるだけ軽減し、保護要因の増強（例えば、自己肯定感、信頼感やソーシャルキャピタル^{*1}、発達資産^{*2}など）を促進する役割を果たすことが求められる。また、発達との関連では、上記に加えて、子ども期にとどまらずその人の生涯にわたる健康的な発達を見通しつつ、その基盤となる資質や能力を修得するための支援を、養護教諭をはじめ教職員は学校教育を通して行うことが求められる。

*1 ソーシャルキャピタル

定まった定義はないが、社会関係における相互作用により個人、集団あるいは組織の内に醸成され、人と人、人と社会制度や社会組織などを結びつける基盤となる特性を指す。信頼や規範、互惠性などがあげられる。

*2 発達資産

子ども・若者が健康に育ち、社会でよりよく生きていくために重要な資質で、お金のような財産ではなく、社会や大人が子ども・若者の健康のために教育などを通して提供できる無形の「資産」のこと。Search Institute（米国）が提案した。